

入学式式辞

春の光はどこまでもまばゆく、生きとし生けるものすべてが躍動する新たな季節となりました。

ただ今、入学を許可いたしました三百十九名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは、今日から、向陽生です。我々は、皆さんが来るのを待っていました。皆さんを歓迎します。本校は、「ひたむきに おおらかに たくましく」を校訓として、三十八年の歴史を築いてきました。これからは、皆さんの力によって、本校に、さらにより良い伝統が積み重ねられていくことを願っています。

入学式にあたり、新たな一員となる新入生の皆さんに対して、本校での高校生活の開始を、ここに宣言します。あわせて、皆さんにお願いを一つします。それは、本校の三年間で『一石三鳥をねらえ』ということです。楽をして二つのことを手に入れようとするのを『一石二鳥』と言いますが、本校での『一石三鳥をねらえ』は、少し意味が違います。勉強、部活動、学校行事の三つに真剣に取り組んでほしいということです。しかも、より良くなろうとする気持ち、すなわち『向上心』という一石をもって、三つの全てにあたってほしいということです。勉強、部活動、学校行事のどれか一つに活躍の場を見出すのではなく、一人の人が、そのすべてに対して、向上心を持って取り組むということです。さらに、より良くなるという比較の対象は、一年前の自分ではなく、昨日の自分です。昨日の自分と比べて、できることが増えた、知識が増えた、友達が増えた、ということ積み重ねていってください。英語の単語を一日ひとつ覚えても、三年間で千個になります。それは、たやすいことではありません。ですが、一人きりでやり続けるわけではありません。友達があります。先輩があります。そして、うまくいかず、一石を投げる勇気が持てない時には、安心して「不安です。怖いです。」と我々に言ってください。必ず支えます。

これから未知の世界に飛び込んでいこうとする皆さんに、エールを送ります。坂村真民（さかむら しんみん）という詩人の詩を紹介します。『鳥は飛ばねばならぬ』という詩です。心静かに、聞いてください。

人は生きねばならぬ

怒濤の海を飛びゆく鳥のように

混沌の世を生きねばならぬ

鳥は本能的に 暗黒を突破すれば 光明の島に着くことを知っている

そのように人も 一寸先は闇ではなく 光であることを知らねばならぬ

新しい年を迎えた日の朝 私に与えられた命題

鳥は飛ばねばならぬ

人は生きねばならぬ

私は、この詩の中に、『覚悟』という言葉を読み取りました。『覚悟』というと切羽詰まった悲壮な感じもありますが、決してそうではなく、これから先にある「光」を目指して飛んで行くんだという強い意志だと思います。新入生の皆さんにも「光」を目指してとびこんで行こうという強い意志を持ってもらいたいと思います。

また、東日本大震災の一年後に、自動車メーカーのホンダが出したCMの言葉を紹介します。今日から高校生活を始める皆さんへのエールとして聞いてください。

頑張っていれば、いつか報われる
持ち続ければ、夢はかなう
そんなのは幻想だ
たいてい、努力は報われない
たいてい、正義は勝てやしない
たいてい、夢はかなわない
そんなこと、現実の世の中ではよくあることだ
けれど、それがどうした？
スタートはそこからだ
新しいことをやれば、必ずしくじる 腹が立つ
だから、寝る時間、食う時間を惜しんで、何度でもやる
さあ、きのうまでの自分を超える

ところで、『一石三鳥をねらえ』にしても、『鳥は飛ばねばならぬ』にしても、鳥をテーマにしていますが、皆さんの身近なところにも鳥がいます。皆さんがこれから毎日身に着ける胸の校章です。初代校長の高橋定之先生がデザインされました？このデザインは、緑豊かな入間市のこの地から、目標に向かって、ひたむきに、おおらかに、たくましく羽ばたく若鳥の姿を表しています。もちろん、生徒の皆さんに対する期待の姿ではありますが、同時に、外の人に向かっての宣言でもあるのです。本校の制服を着て、この校章を胸に着けるということは、「私は、目標に向かって、ひたむきに、おおらかに、たくましく羽ばたく若鳥になります」という宣言でもあるのです。制服と校章に誇りを持ってほしいと思います。

本日、この場にはいらっしやいませんが、保護者の皆様にも、お子様のご入学に際し、お祝いの気持ちをお伝えしたいと思います。本来であれば、これまで大切に育て上げてこられた我が子の晴れ姿をご覧になりたいところかと思えます。新入生の皆さんは、保護者の皆さんがどういう想いでこの日を迎えたかということに思いをはせてください。また、学校評議員の方々、小中学校の関係者の皆様をはじめとして、地域の多くの方に期待されているということも忘れないでください。

結びに、新入生の皆さんが、本校で大きく成長されることを心から願い、式辞といたします。

令和二年四月八日

埼玉県立入間向陽高等学校長 菅野 義彦